2023 年度　第 2 回 9 月阪大本番レベル模試　地理　採点基準

■　単答記述問題

誤字，脱字，漢字間違いは０点。

■　論述問題

①「設問別加点基準」に基づき加点する。また，その他各問題の主旨に適した解答にも適宜加点する。ただし，満点を超える得点は与えない。

②　以下の「共通減点基準」に基づき減点する。

■　共通減点基準

①　加点要素における誤字・脱字および漢字の間違いは１点減点。

②　下線の付け忘れは１問につき１点減点。

③　指定語句不使用は，指定語句１つにつき１点減点。
（解答中のどこかで使用していればよい。
加点ポイントの脱落による減点がある場合は，それ以上の減点は不要。）

④　字数オーバーは１点減点。

＊減点しなくていい要素，その他の注意

①　地理用語に関して，漢字の新字体／旧字体や，スロヴェニア⇔スロベニア，パキスタン⇔パーキスターンといったカタカナ表記の通念の範囲内での異体に関しては減点はしない。

②　加点要素以外で誤った記述があった場合，その部分は０点だが，減点はしない。

③　加点項目は内容的に整合性が取れていればよく，字句の順序や表現は必ずしも完全に一致していなくてもよい。

④　文章が未完のものも減点しない。

■　採点記号について

１．＜□□□□＞　加点ポイント
２．□□□□×　　事実に誤認あり
３．□□✔□□　　誤字あり／脱字あり

■ 設問別加点基準

1）＿＿＿＿＿部分は必須キーワードであり，この表現がなければ当該加点ポイントにおける加点はしない。その他は同義であれば加点する。

2）○○／△△　は「○○でも△△でも可」を意味する。

3）「②（①の説明として）」は，加点ポイント①を正解していなくても，加点ポイント②に該当すれば加点する。

Ⅰ（配点　50 点）

問 1(a)　5 点

大陸部は低湿な大河川のデルタ地帯で，島嶼部は人口密度が高く多くの棚田が築かれた島で稲作が盛んである。

【加点ポイント】

①＜3 点＞【大陸部で稲作が盛んな場所】

○三角州／デルタ　→2 点

△「低湿地／河川沿い／河口付近／平野部」のみ　→2 点

②＜2 点＞【島嶼部で稲作が盛んな場所】

○棚田　→2 点

△「傾斜地／山肌／山間部」のみ　→1 点

※「一文で」とあるので二文以上になっている場合は「全体から－1 点」とする。

問 1(b)　6 点（各 2 点×3）

A：インドネシア　　B：タイ　　C：日本

問 1(c)　10 点

共通点は，両国とも緑の革命で米の高収量品種が普及し，生産量が増えたこと。相違点は，米輸出の盛んなタイは，肥料や農薬を節約して輸出価格を抑えるため単位面積当たりの収量がインドネシアを下回るが，自給率は高いこと。

【加点ポイント】

※問 1(b)の可否は問わない。

ⅰ）共通点（4 点）

①＜2 点＞【生産量について】

○ともに生産量が増えた

②＜2 点（1 点×2）＞【①の背景】

○緑の革命　→1 点

○高収量品種の導入　→1 点

（次ページに続く）

ⅱ）相違点（6 点）

③＜2 点＞【自給率について】

〇タイは自給率が高い／タイは自給率が 100%を超える／タイは米を輸出している

／タイは輸出用の米が多いがインドネシアの米は自給用である

△「インドネシアは米を自給できていない／インドネシアは米を輸入している」のみ　→1 点

④＜2 点＞【米の生産性について】

〇タイは単位面積当たりの収量がインドネシアを下回る

／単位面積当たりの収量はタイよりインドネシアの方が高い

⑤＜1 点＞【④の背景】

〇タイは肥料（農薬）を節約している（利用が少ない）

／インドネシアは肥料（農薬）を多く用いる

⑥＜1 点＞【⑤の理由】

〇タイは米の輸出価格を抑えたい／タイは米の生産コストを抑えて輸出したい

／インドネシアは人口が多いので主食の米の生産性を上げたい

問 2(a)　4 点（各 2 点×2）

X　〇天然ゴム　　×ゴム

Y　〇パーム油　　×アブラヤシ

問 2(b)　15 点

※　[指定語句]　一次産品　脆弱　輸出加工区　老朽化　転作　　5 つ全て使用（※下線不要）

☆☆　指定語句不使用は，指定語句 1 つにつき 1 点減点。
ただし，解答中のどこかで使用していれば減点しない。

少数の一次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済であったため，国際価格の下落等で国全体の経済が悪化する脆弱な経済構造であった。そのため輸出加工区への外国資本の誘致で工業化が進められ，機械類が最大の輸出品となった。また，天然ゴムの木が老朽化してアブラヤシへの転作が進み，最大の輸出農産物はパーム油となった。

【加点ポイント】

※問 2(a)の正否は問わない

ⅰ）以前（1965 年頃）の輸出品について（4 点）

①＜2 点＞【輸出品の特徴】

〇一次産品の輸出が多い／農産物や鉱産資源の輸出が多い

②＜2 点（1 点×2）＞【①の経済構造について】

〇モノカルチャー経済である／輸出品の国際価格により国の経済が左右される　→1 点

〇経済構造が脆弱である　→1 点

※「脆弱なモノカルチャー経済である／モノカルチャー経済なので脆弱である」　→2 点

（次ページに続く）

ⅱ）近年（2020 年）の輸出品について（11 点）

③＜2 点＞【輸出品の特徴 1】

〇機械類が多い／工業製品が多くなった

④＜4 点（2 点×2）＞【③の背景】

〇輸出加工区の設置　→2 点

〇外国資本の誘致（外資の導入）／外国企業の誘致　→2 点

⑤＜1 点＞【輸出品の特徴 2】

〇パーム油が多くなった

⑥＜4 点＞【⑤の背景】

〇天然ゴムの木の老朽化　→2 点

〇（天然ゴムから）アブラヤシへの転作　→2 点

（油ヤシ／油やし／あぶらやし）

問 3　10 点

マレーシアは，マレー人等の先住民族の所得水準が中国系やインド系に比べ低いため，先住民族を雇用や進学で優先する政策が導入された。これに中国系住民の多いシンガポールが反発し，分離独立が決まった。

【加点ポイント】

ⅰ）独立の理由について（7 点）

①＜3 点＞【独立の理由】

〇マレーシアのマレー人（マレー系／先住民）優遇政策に反発した

／マレーシアのブミプトラ政策に反発した

②＜4 点（2 点×2）＞【①の政策の背景】

〇マレー人（マレー系／先住民）の所得水準が低い／マレー人の経済的地位が低い　→2 点

〇中国系（やインド系）の所得水準が高い／中国系の経済的地位が高い　→2 点

※◎「マレー人と中国系とで経済格差がありマレー人が低い」　→4 点

△「マレー人と中国系とで経済格差がある」のみ（どちらが上か不明）　→2 点／4 点のうち

ⅱ）シンガポールについて（3 点）

③＜3 点＞【シンガポールの民族的特徴】

〇中国系が多い

Ⅱ（配点　50 点）

問 1　14 点

天竜川沿いに河岸段丘が発達しており，そこに小川川が谷を刻んでいる。低湿な天竜川と小川川の谷底平野には水田が広がり，湧き水を得やすい段丘崖の下では集落が立地する。傾斜のゆるい高燥地である段丘面には，水はけの良い土地が立地に適する果樹園や畑が多い。傾斜の急な段丘崖には広葉樹林，針葉樹林，竹林がみられる。

【加点ポイント】

ⅰ）地形の特徴について（3 点）

①＜3 点＞【地形図にみられる地形】

〇河岸段丘

ⅱ）集落の土地利用（2 点）

②＜1 点＞【集落が立地する地形】

〇段丘崖の下／後背湿地と段丘崖の境

③＜1 点＞【②の背景】

〇湧き水が得やすい／湧水帯がある

ⅲ）農地の土地利用（6 点）

④＜1 点＞【土地利用】

〇水田

⑤＜1 点＞【④が立地する地形】

〇谷底平野／天竜川（小川川）の後背湿地

⑥＜1 点＞【④の立地の背景】

〇低湿／農業用水を得やすい／農業用水をためやすい

⑦＜1 点＞【土地利用】

〇畑／果樹園

⑧＜1 点＞【⑦が立地する地形】

〇段丘面

⑨＜1 点＞【⑦の立地の背景】

〇高燥地／水はけが良い／地下水位が低い／農業用水を得にくい

ⅳ）林地の土地利用（3 点）

⑩＜1 点＞【土地利用】

〇広葉樹林／針葉樹林／竹林

⑪＜1 点＞【⑩が立地する地形】

〇段丘崖

⑫＜1 点＞【⑩の立地の背景】

〇傾斜が急／農耕に不向き

問 2　14 点

図 3 にはリアス海岸がみられ，これは山地が海面上昇または土地の沈降で沈水し，尾根が半島，V字谷が入り江になることで形成される。リアス海岸の入り江は水深が深く波が穏やかであり，漁船の操業や生け簀の設置に適する。また，河川等を介して海に腐葉土の栄養分を供給する山地が近くまで迫るため，養殖場の立地に適する。

【加点ポイント】

ⅰ）地形名と形成過程（8 点）

①＜2 点＞【地形名】

○リアス海岸／リアス式海岸

②＜6 点（3 点×2）＞【①の形成過程】

○V字谷　→3 点

○沈水した／（V字谷に）海水が侵入した　→3 点

ⅱ）養殖場が多い理由（6 点）

③＜6 点（2 点×3）＞【理由】

○水深が深い　→2 点

○波が穏やか　→2 点

○腐葉土の栄養分を供給する山地が近い／河川により森林（山地）の栄養分が供給される　→2 点

問 3　22 点

アとイのそばを流れるかれ川は天井川となっている。堆積作用の活発な扇状地を流れる河川は堤防を築くとその内側に土砂が溜まり，河床が高くなりやすい。ゆえに堤防をさらに高くする必要が生じるが，そうすると河床もまた高くなるということが繰り返され，天井川が発達する。天井川の周囲の低い土地は，豪雨時に堤防からあふれた水に襲われやすく，洪水による被害が拡大しやすい。一方，ウとエが示す扇状地の扇頂付近は，山地斜面から上流に流れ込んだ土砂が，山間の谷から平野に吐き出される場所にあたる。そのため，土石流に遭いやすい。

【加点ポイント】

ⅰ）ア・イ付近のかれ川の形態と形成要因（12 点）

①＜2 点＞【形態の名称】

○天井川

②＜6 点（2 点×3）＞【①の形成要因】

○堤防を築く／人工堤防　→2 点（※単に「堤防」で人工の堤防だと分からない場合　→△1 点）

○（堤防の）内部に土砂が溜まる／河床に土砂が溜まる　→2 点

○周囲より河床が高くなる／川の周囲は河床より低い土地になる　→2 点

③＜4 点（2 点×2）＞【①が形成されやすい理由】

○扇状地である

○土砂の堆積作用が活発／土砂が堆積しやすい

（次ページに続く）

ⅱ）天井川の周囲での災害（4 点）

④＜2 点＞【災害名】

〇洪水／水害／浸水被害

⑤＜2 点＞【④の要因】

〇大雨／豪雨

ⅲ）ウ・エ付近の災害について（6 点）

⑥＜2 点＞【ウ・エ付近の地形名】

〇扇頂／谷口

⑦＜2 点＞【ウ・エ付近の災害】

〇土石流

⑧＜2 点＞【⑦の背景】

〇山地の土砂が平野に吐き出される場所である

／大雨で崩れた山の土砂や倒木が川で運ばれ広がる出口にあたる